

平成 21 年 6 月 8 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2005～2008
 課題番号：17320044
 研究課題名（和文）18世紀末から20世紀前半までの英米のユートピアニズムの政治批評的
 研究
 研究課題名（英文）The Politics of Representation in Late-18th to Early-20th Century
 British and American Utopianism
 研究代表者
 氏名（アルファベット）ホーンズ シーラ（Hones, Sheila）
 所属機関・所属部局名・職名 東京大学・大学院総合文化研究科・教授
 研究者番号 70206035

研究成果の概要：

2001年度～04年度までの科学研究費（基盤B「19世紀末英米文学における都市の表象に関する新歴史主義的研究」）の成果をもとに、英米におけるユートピアニズムに関するテキストと実践を研究することを目的とした。海外の研究者らと共同して、文化地理学、空間理論、マテリアル・カルチャーなどの知見を援用しながら、ユートピアニズムの表象を政治批評的に研究することで、この英米の思想史における重要な概念を、きわめて国際的・学際的な視座で考察することができた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	5,300,000	0	5,300,000
2006年度	2,800,000	0	2,800,000
2007年度	2,800,000	840,000	3,640,000
2008年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
年度			
総計	14,600,000	1,950,000	16,550,000

研究分野：文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：文学、文化地理学、空間論、イギリス、アメリカ、ユートピアニズム、政治批評

1. 研究開始当初の背景

19世紀の英米文学・文化を考察する際の重要な概念であるユートピアニズムを、学際的な知見から検討する必要があった。とりわけ、「ユートピア」という具体的な「空間」・「場所」を考えるためには、それを歴史性や空間性（つまり、時空の軸）のなかで捉える必要があった。このような意識を共有する一方で、各研究代表者・分担者にはそれぞれ以下のような研究の背景があった。

（1）ホーンズはユートピアニズムを最新の文化地理論・批評地理論にもとづいて再

読することの必要性を感じ、イギリス在住の研究協力者であるジェームズ・ニール博士、ジュリアン・ホロウェイ博士、イアン・クック博士、アメリカ在住のショーン・シュー博士と学会活動や電子メール等で意見交換を行っていた。

（2）丹治愛の研究の背景は以下の通りである。E・M・フォースターの『ハワーズ・エンド』（1910）は、エドワード朝（1901-1910）における「イングランドの状況」を表現する作品として、田園主義的価値を強調する牧歌的テキスト、パストラル的ユートピアの一種

と見なされてきた。とくにそのことに異を唱える必要は感じなかったが、ニュー・ヒストリシズム的立場からこの作品を同時代の歴史資料と比較し、より厳密に歴史主義的に解釈する必要性を感じていた。

(3) 丹治陽子の背景は以下のとおりである。19世紀後半から20世紀前半にかけて、英米におけるユートピア文学に影響をあたえた思想としては、ダーウィニズム、社会主義、そしてフェミニズムがあげられよう。このうち、ダーウィニズムとユートピアニズムについては、一般的言及は数かぎりなくある割には、ダーウィンの著作を具体的に読解したうえでの実証的かつ学際的な新歴史主義的研究は乏しいと考えた。

(4) アルヴィ宮本は、イギリスロマン派の時代の政治思想におけるユートピアと、文学におけるユートピアがクロスオーバーしていることを文学の側から検証することに関心を抱いていた。

(5) 矢口は19世紀から20世紀にかけてのアメリカのユートピアニズム・楽園像とその表象を具体的なケーススタディを通して考察する必要性を感じていた。

(6) 土田は19世紀から20世紀の世紀転換期のアメリカを対象に、スウェーデン系移民の文化変容を、アメリカ社会における科学・技術信奉イデオロギーへの参加・同化を軸に研究していた。

2. 研究の目的

19世紀末のユートピアニズムの思想、文学作品、そして実際に設立された実験的ユートピアニズム・コミュニティなど、具体的な事例をそれぞれの研究代表・分担者がとりあげて考察することで、共有する理論的な問題意識に対する知見を深めることを目的とした。

(1) ホーンズは最新の空間理論に基づき、ユートピアニズム思想がイギリスの近代文学・文化理解の鍵となることを示そうとした。

(2) 丹治愛の目的は、『ハワーズ・エンド』を同時代の歴史資料とあわせて読むことによって、この作品のパストラル性をたんなる超歴史的な主題としてあつかうのではなく、この時代に特有のメンタリティをあらわすものとして記述することにある。

(3) 丹治陽子はダーウィニズムとユートピアニズムの関係を、進化の要因としての生存競争の必要性を主張するダーウィニズムと、闘争の歴史の終焉を前提とするユートピアニズムははたして相容れるものなのかという主題を中心に据えて追究することをめざした。

(4) アルヴィ宮本は P.B.シェリーを取り上げ、ユートピアの政治史の中でイギリスロマン主義が占める位置を再検討しようと

した。イギリス政治思想史の中でトーマス・モア以来重要な位置をしめるユートピアの思想は、18世紀後半、フランス革命の影響、ゴドウィンの『政治的正義』(Political Justice)の影響で、イギリスロマン主義の文学に多大な影響を与え、ヴィクトリア朝のユートピア文学へ繋がる地下水脈を形成するのであるが、この大きな流れの中で、ロマン派詩人の中で、特に政治的ユートピアと文学的ユートピアの接点を希求したのが P.B.シェリーであったのだ。

(5) 矢口はユートピアニズムがどのような形式で体现されたのか、そしてそれが今日いかに保存され、観光地化されることで過去のユートピアイメージが今日のアメリカにおいて理解されているかを考えようとした。

(6) 土田はユートピアニズムを分析の枠組みとして新たに導入することで、19世紀から20世紀の世紀転換期の時代のより広い思想的文脈に位置づけることを目的とした。

3. 研究の方法

学際性をキーワードに、文学、地理学、歴史学、アメリカ研究、マテリアル・カルチャー研究など、多角的にユートピアニズムを検討した。その際には国際的な連帯も重視し、アメリカとイギリスの研究者と意見交換を継続して行った。

(1) ホーンズは19世紀末のユートピアニズムの表象を空間理論の視座から検討した。

(2) 丹治愛は後期ヴィクトリア朝からエドワード朝にかけての産業革命論、都市論的テキスト、「土地に還れ」運動を中心とした田園主義的テキストなどとのインターテクスツ的関連のなかで『ハワーズ・エンド』を解釈するというニュー・ヒストリシズムの方法を採用した。さらに、1906年以降にはじまった自由党政権のリベラル・リフォームとの関連についても検討した。

(3) 丹治陽子は、この時代の社会主義的ユートピアの代表作としてのエドワード・ベラミの『かえりみれば (Looking Backward)』(1888)を、ダーウィンのテキストと比較することをとおして、両者のあいだのインターテクスチュアリティを研究した。

(4) アルヴィ宮本はフランス啓蒙主義の人間の "perfectibility" を継承するゴドウィン、ゴドウィンに反対の立場を取るマルサス(『人口論』初版でゴドウィンに反対の立場から労働階級の人口爆発によるイギリスのディストピアの未来を予言)らの18世紀後半のイギリス政治・経済思想史におけるユートピアの流れの中に、シェリーのイギリス文学史上最も「ユートピア的」と言われる『縛を解かれたプロメテウス』(Prometheus

Unbound)の位置づけを行う一方、ユートピアが「場所」(モア以来の絶海の孤島)から「時間」へと代わる18世紀後半のフランス文学の影響(メルシエ)下におけるヨーロッパ的な変化の中にシェリーの作品を位置づけ、シェリーの『縛を解かれたプロメテウス』を19世紀イギリスユートピア思想史の一つの大きな転換点として示そうとした。

(5) 矢口はニューヨークのオナイダ・コミュニティや19世紀から20世紀にかけてのハワイの楽園イメージなどに関して、現地や関連資料館を訪れて調査を行った。

(6) 土田はアメリカの科学・技術信奉とユートピアニズムとの接点を、万国博覧会および科学者・技術者の英雄化に求め、歴史史料の分析を行なった。

4. 研究成果

ユートピアニズムを学際的・多角的に検討し、個々の研究者の知見を深めるとともに、国内外の研究者とその成果を共有することで、文学・地理学・アメリカ研究等の分野に意義深い貢献をすることができた。なお、海外の研究協力者とともに、本研究課題の成果を論文集として刊行する予定である。

(1) ホーンズは*Geography Compass*などの主要な国際学術誌やRoyal Geographic Societyなどの国際学会において、にユートピアニズムに用いられる「場所」の概念に関する理論的知見を発表した。

(2) 『『ハワーズ・エンド』の文化研究的読解 都市退化論と「土地に還れ」運動』、『『ハワーズ・エンド』の文化研究的読解への不満 貧困と帝国主義をめぐる人間主義的問い』とを発表し、『ハワーズ・エンド』のパストラル的ユートピアの特質を歴史主義的に明らかにした。

(3) 丹治陽子は『かえりみれば』という社会主義的ユートピア小説において、まず、「歴史の終焉」としてのユートピアがいかなる闘争の果てに成立してきたか——「パンを得るための闘争」、あるいは「人間どうしの生きんがための戦い、すなわちたんなる生存闘争」としての歴史が終息し、それにかわって、「協働者」の「同胞愛」に支配された世界が実現されたのか——を明らかにした。そのうえで、モア『ユートピア』に関するステイヴン・グリーンブラットの分析を参考にしながら、第7章ならびに第12章における「産業軍(industrial army)」という「ザ・グレート・トラスト」の経済組織の説明が、あるいは第25章において導入される「性選択(sexual selection)」のモチーフが、いかに「闘争」から「同胞愛」へとユートピア的テーマを裏切っているかを、テキストの具体的分析をとおして浮かびあがらせ、そのことをとおしてダーウィニズム以降における

ユートピアニズムの不可能性のひとつのあたりを明らかにした。

(4) アルヴィ宮本は「流滴の楽園：Prometheus Unboundにおけるユートピアの空間の考察」という論文を執筆し、さらにPBシェリーに関して「忘却の考古学：“The Triumph of Life”と解体/構築する比喩」という発表を行った。

(5) 矢口はニューヨークのセネカ・フォールズやオナイダ・コミュニティで行った調査の研究報告や19世紀から20世紀にかけてのハワイの楽園イメージの形成などに関する論文などを発表した。

(6) 土田はまず、南北戦争において新技術をもたらした技術者とその創造物が、19世紀末から20世紀初めにどのように英雄化・伝説化されたかを、それらの表象のあり方から検討し、科学・技術信奉と当時のユートピアニズム思想との関連を示した論文を発表した。さらに1930年代のアメリカにおける万国博覧会に、多様な移民・エスニック集団がどのような目的と論理をもって参加していたかを検討し、それらの集団のナショナリズム思想とアメリカ社会への同化の意志が、当時の万博を性格づけていたテクノロジカル・ユートピアニズムと共鳴していたと結論づけた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 25 件)

丹治愛『『ハワーズ・エンド』の文化研究的読解 都市退化論と「土地に還れ」運動』、『英米小説の読み方』林文代編、岩波書店、2009年2月、pp.115-134、査読なし

丹治愛『『ハワーズ・エンド』の文化研究的読解への不満 貧困と帝国主義をめぐる人間主義的問い』、『英米小説の読み方』林文代編、岩波書店、2009年2月、pp.135-155、査読なし

土田映子「テクノロジーと移民のアメリカニズム—スウェーデン系移民社会による軍艦『モニター』とジョン・エリクソンの表象—」、『アメリカ研究』43号(2009年)155-173頁 査読有

ホーンズ・シーラ Dec. 2008 "Location, Context, and Perspective in American Studies," *Comparative American Studies* 6 (4), pp 313-328. 査読有

ホーンズ・シーラ Aug. 2008 "Text as it Happens: Literary Geography," *Geography Compass* 3 (5) 1301-1317. 査読有

矢口祐人「帝国の縁：ハワイとアメリカ史における「周縁」」遠藤泰生編『アメリカの歴史と文化』（放送大学教育振興会 2008年3月）128-140 査読なし

矢口祐人「第二次世界大戦と日本」遠藤泰生編『アメリカの歴史と文化』（放送大学教育振興会 2008年3月）172-187. 査読なし

矢口祐人「ハイラム・ヒラー書簡」『北海道開拓記念館調査報告』（北海道開拓記念館）2008年3月 pp.87-100. 査読なし

丹治愛、「進歩のなかの退化 H・G・ウェルズのSF、あるいは後期ヴィクトリア朝の光と影」、『夜想』ヴィクトリアン特集、ステュディオ・パラポリカ、2008年10月、pp.150-157、査読なし

丹治愛、「ヴィクトリア朝生体解剖論争と『ドリアン・ 그레이の肖像』、『オスカー・ワイルド研究』第9号、日本オスカー・ワイルド協会、2008年3月、pp.25-42、査読なし

ホーンズ・シーラ July 2007 "Editor's Introduction," *The Japanese Journal of American Studies*, 18, 1-3. 査読なし

ホーンズ・シーラ Mar. 2007 "Muji, Materiality and Mundane Geographies," [co-authored with Julian Holloway], *Environment and Planning: A* 39 (3), pp. 555-569. 査読有

丹治愛、インタビュー「ヴィクトリア朝を背景に誕生した『ドラキュラ』、『夜想』ヴァンパイア特集、ステュディオ・パラポリカ、2007年11月、pp.162-175、査読なし

丹治愛、「後期ヴィクトリア朝におけるイングリッシュネス概念の成立」、『平成15年度～18年度 科学研究費補助金基盤研究(B) 研究報告集』、2007年5月、pp.167-82、査読なし

丹治陽子「アメリカの想像力における自然と都市——『シスター・キャリー』における自然主義的都市イメージの新しさについて」2007年2月 『横浜国立大学教育人間科学部紀要（人文科学）』No.8 P1-13

矢口祐人"War Memories Across the Pacific: Japanese Visions at the Arizona Memorial" Marc Gallicchio, ed., *The Unpredictability of the Past* (Durham: Duke University Press, 2007) 234-252. 査読有

ホーンズ・シーラ Fall 2006 "Space, Setting, and the Adventure Story: or, With Perry in Japan," *Genre: Forms of Discourse and Culture*, 39, 3-4, pp. 39-55. [Fall 2006 issue published September 2008] 査読有

ホーンズ・シーラ Nov. 2006 "In the Event: Engaging with Space in American Studies," 49th Parallel: An Interdisciplinary Journal of North American Studies, Autumn 2006, np, <http://www.49thparallel.bham.ac.uk/>. 査読有

ホーンズ・シーラ Sept. 2006 "All Together Now," *The Review of International American Studies*, 1,1 (September 2006) pp. 18-25, http://www.iasa-rias.org/index.php?k=179&z=22&spis_tresci 査読なし

ホーンズ・シーラ July 2006 "History, Distance and Text: Narratives of the 1853-4 Perry Expedition to Japan," [co-authored with Yasuo Endo], *Journal of Historical Geography*, 32, 3 (July 2006) pp. 563-78. 査読有

21 アルヴィ宮本なほ子「流滴の楽園：Prometheus Unboundにおけるユートピアの空間の考察」『ODYSSEUS』（東京大学大学院総合文化地域文化研究専攻紀要）11 (2006):31- 50 査読なし

22 丹治陽子「アメリカ的想像力における都市」2006年5月 『19世紀末英米文学における都市の表象に関する新歴史主義的研究（科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書）』 P70-86 査読なし

23 丹治愛、「都市を歩くこと 『ダロウェイ夫人』における文化と意志」、『ヴァージニア・ウルフ「ダロウェイ夫人」』窪田憲子編、ミネルヴァ書房、2006年11月、pp.29-47、査読なし

24 矢口祐人"War memories across the Pacific: Japanese visitors at the Arizona Memorial," *Comparative American Studies* 3:3 (September 2005): 327-342. 査読有

25 矢口祐人 Evolutions of "Paradise": Japanese Tourist Discourse about Hawai'i, *Journal of*

American Studies 45:2 (Summer 2005): 5-29.
(co-authored with Mari Yoshihara) 査読有

〔学会発表〕(計 31 件)

矢口祐人 "War Memories: America, Asia and Pacific," American Memorial Park, Public Roundtable (Saipan, Commonwealth of Northern Marianas) 2009 年 3 月

矢口祐人 "War Memorials in Saipan," American Historical Association (New York, NY) 2009 年 1 月

丹治愛、真野泰、アルヴィ宮本なほ子、玉井暲、「英語を教えること、英文学を教えること」司会 = 丹治愛、日本英文学会第 80 回全国大会、広島大学、2008 年 5 月 25 日

矢口祐人 "War Memories Across the Pacific: Japanese Visitors at the Arizona Memorial" East West Center (NEH Workshop on Pearl Harbor) 2008 年 7 月 30 日・8 月 6 日

矢口祐人 "The Pacific as an Inland Sea" The United States as a Pacific Nation Symposium, Rikkyo University Institute for American Studies (Tokyo) 2008 年 6 月 17 日

矢口祐人 「日本における戦中のハワイ・イメージ」北海道アメリカ文学会第 18 回支部大会 (北星学園大学) 2008 年 12 月 20 日

ホーンズ・シーラ "Counterfactual Fiction and the Fact of Other Realities," [presented in absentia], Research Workshop on 'Counterfactual geographies: worlds that might have been,' Social and Cultural Geography Research Group, Royal Holloway, University of London, UK., Aug 2007

丹治愛、「後期ヴィクトリア朝の科学批判」(日本英文学会北海道支部大会) 2007 年 10 月 6 日 (土) 札幌大学

矢口祐人 "Longing for a perfect Hawaiian body: performing hula in Tokyo" East West Center International Cultural Studies Certificate Program, Spring 2007 Speakers Series (Honolulu, HI) 2007 年 3 月

矢口祐人 "Remembering Pearl Harbor: Exploring Multiple Perspectives through NEH Teacher Workshop" Hawaii Museum

Association Annual Conference (Honolulu, HI) 2007 年 5 月

矢口祐人 "Saipan Memorials, Japanese Tourists, and Views of a Colonialist Past," Pacific Coast Branch, American Historical Association (Honolulu HI) 2007 年 7 月

矢口祐人 "War Memories Across the Pacific: Japanese Images and Perspectives on Pearl Harbor," Pearl Harbor: History, Memory, Memorial, East West Center (Honolulu HI) 2007 年 7 月.

矢口祐人 「憧れのハワイアン・ボディ：フラにおける精神と身体」東京大学 (東京大学大学院総合文化研究科地域部下研究専攻シンポジウム「人種と人種主義を問う～地域文化研究の視点から」) 2006 年 11 月

矢口祐人 "In Search of the "Real" Hawai'i: Hula Practitioners in Japan" American Studies Association (Oakland, CA) 2006 年 10 月.

矢口祐人 "War Memories Across the Pacific: Japanese Visitors at the Arizona Memorial" East West Center (NEH Workshop on Pearl Harbor) 2006 年 8 月

矢口祐人 "Memories and the Arizona Memorial: Japanese visitors remember the Pearl Harbor Attack" Brown University, Department of American Civilization, "The Pacific War and The War on Terror--Memory, Precedent, and Lessons: A Symposium" (Providence, RI) 2006 年 4 月.

矢口祐人 "Remembering Pearl Harbor: The Teachers' Workshop Experience." Organization of American Historians (Washington DC) 2006 年 4 月.

丹治愛、「ワイルドの唯美主義と生体解剖」(日本オスカー・ワイルド協会全国大会) 2006 年 11 月 25 日 (土) 日本女子大学

ホーンズ・シーラ "Ambient Transnationalism" Roundtable on "Transcultural American Studies and Transdisciplinarity," Annual Meeting of the American Studies Association, Oakland, CA, USA. Oct 2006

ホーンズ・シーラ "Contradictory Geographies in Counterfactual Fiction", Royal Geographical Society/Institute of British Geographers Annual Conference, London, UK. Sept 2006

21 ホーンズ・シーラ "Writing geographies of corruption: the opaque language of transparency" [co-authored with Ed Brown and Jon Cloke], Royal Geographical Society/Institute of British Geographers Annual Conference, London, UK. Sept 2006

22 ホーンズ・シーラ "Disrupting Location", Japanese Association for American Studies Annual Conference, Nagoya, Japan. June 2006

23 ホーンズ・シーラ "Scrunch and Stretch: Mapping Academic Space", International Conference on 'Engaging the 'New' American Studies,' The University of Birmingham, UK. May 2006

24 ホーンズ・シーラ "Beyond Setting: Narrative Space in Alice Walker's 'Petunias'", Association of American Geographers Annual Meeting, Chicago, IL, USA. Mar. 2006

25 アルヴィ 宮本なほ子「忘却の考古学：“The Triumph of Life”と解体／構築する比喻」
日本シェリー研究センター 第14回大会
Shelley Symposium 2005 東京大学山上会館
2005年12月3日

26 矢口祐人“Liberal arts Education and Its Development at the University of Tokyo” (with Yasushi Yamamoto) International Conference: Liberal Education in Korea: Challenges and Prospects (Seoul, Korea) 2005年4月

27 矢口祐人“Hula in Japan”, Association for Asian American Studies (Los Angeles, CA) 2005年4月

28 ホーンズ・シーラ "Location, Affiliation, and Access", plenary panel session, "International Voices, Powers, and Flows," Royal Geographical Society/Institute of British Geographers Annual Conference, London, UK. Sept. 2005

29 ホーンズ・シーラ "Spectral Geography and Fictional Setting" Royal Geographical Society/Institute of British Geographers Annual Conference, London, UK. Sept. 2005

30 ホーンズ・シーラ "Geographies of American Studies," Roundtable on "Networking American Studies," International American Studies Association 2nd World Congress, Ottawa, Canada, Aug. 2005.

31 ホーンズ・シーラ "Genre and Geography:

Kirk Munroe's A Son of Satsuma: or, with Perry in Japan", American Literature Association annual meeting, Boston, MA, USA. May 2005

〔図書〕(計 3 件)

矢口祐人『ハワイ・真珠湾の記憶』森茂岳雄・中山京子と共著(明石書店 2007年7月) 57頁

矢口祐人『現代アメリカのキーワード』吉原真里と共編(中公新書 2006年8月) 376頁

矢口祐人『ハワイとフラの歴史物語』(イカロス出版 2005年6月) 233頁

6. 研究組織

(1)研究代表者

ホーンズ・シーラ

東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：70206035

(2)研究分担者

丹治 愛

東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：90133686

丹治 陽子

横浜国立大学・教育人間科学部・教授
研究者番号：90188459

アルヴィ 宮本なほ子

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号：20313174

矢口 祐人

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号：00271700

土田 映子

北海道大学・言語文化部・准教授
研究者番号：50313160